

2年生学年だよ

令和元(2019)年7月16日
第19号
吹田市立第二中学校第二学年
本の読み方



みんなは毎朝10分間、読書をしているよね。次のうちどれがあてはまるものはありますか？

- 「好きでもない読書をなんで毎日やらなあかんのやろー」って思うことがある。
- 「自分って本を読むのが遅いなあ。もっと速く読めたらいいのに。」って思うことがある。
- 本を読んでいると、気づくと字を目で追っているだけで何も頭に入っていないことがよくある。
- 本を読んでいると、いつのまにか眠くなる。
- 本を読みかけたが、途中から内容がよくわからなくなり、読むのをやめたことがある。



最近、平野啓一郎さんの「本の読み方～スローリーディングの実践～」という本を読みました。この本の内容がとても面白くて、「目から鱗が落ちる」とはこの事だなあと思いました。「ああ、この本を自分が中学生の頃に読んでおきたかったなあ」って思ったので、みんなにも内容を一部紹介しておきますね。平野さんは「読書はゆっくり理解しながら進めばいい」、「あせって速く読もうとするのは間違いだ」っておっしゃっています。みんなの参考になれば嬉しいです。(内容が、ちと難しいかな…まっ読んでみて！)

※平野啓一郎さんとは京都大学法学部卒業、大学在学中に書いた「日蝕」という小説が芥川賞を受賞したという秀才です。最近では「マチネの終わりに」という作品が渡辺淳一文学賞を受賞し、その作品は福山雅治さん主演で映画化され、今年の11月に公開されます。

印象に残ったフレーズ

※一部、わかりやすいように表現を変えています。

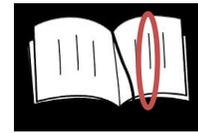
・一日の時間は限られている。今はインターネット、SNSなどで情報が氾濫し、それを処理するだけで疲れてしまい、「SNS疲れ」という言葉があるくらい。そんな中で本を**あせって速く読んでもたかがしれている**。それほどまでに**疲れる世の中**だからこそ、私たちには**ゆったりとした読書の時間**が必要なのである。

・「1年間に何冊読んだ」という類の大食い競争のような読書量の自慢にはうんざりする。速読は結局、**読書ではなく情報処理**ではないか。**闇雲に活字を追うだけの貧しい読書から、味わい、考え、深く感じる豊かな読書へ。**

・**旅行は旅行に行ったという事実に意味があるのではない**。行ってどれくらいその土地の魅力を堪能できたかに意味がある。速読した人が「つまらなかった」と感想を漏らすのは、本の中にある様々な

仕掛けや意味深い一節を見逃している可能性がある。

・読書を今よりも楽しいものにしたいと思うなら、**書き手の仕掛けや工夫を考えてみる**とよい。たとえば「なぜ暗い部屋におばあさんが登場するこのシーンが書かれてるの?」「明るい部屋なら?おじさんじゃだめなの?」など。三島由紀夫などはスローリーディングすると、ここまで気を使うのか!というほど**細かな仕掛けがいくつも見えてくる**。しかし、その多くは、実はほとんどの読者に気づかれないまま、**埋蔵金のように(!)**今も小説の至るところに眠っているのである。



・よくわからない内容があったら、「**なんでかな?**」と立ち止まって考える。もう一度読み直す。**よくわからんまま素通りしない**。

時間をかけて考えることで、たとえそのときわからなくても、読み進めていくうちに、「あ〜こういうことだったのか」とわかることもある。「**ワケワカンナイ**」と投げ捨てたら自分で自分を「**馬の耳に念仏状態**」にしているのと同じである。

・わからなくなった箇所をそのままにしておいて読み進めてもいっても内容の理解は半減してしまう。忘れた部分は「**なんだっけ?**」としっかり確認してから改めて前進すればよいのである。私も、しょっちゅう読み返しながらか進んでいる。



勉強と一緒に
じゃない?

・「**速い仕事**」はどこか信用できない。医療や裁判など大事な仕事ほど速さよりも丁寧さを求めるはずである。

・実を言うと、私は高校生のとき国語の点数があまりよくなかった。たとえば夏目漱石の文が問題に出ていたら、夏目漱石が何を言いたいのか考えて回答していた。しかしあるときふと気がついた。この**問題を作ったのは夏目漱石ではなく国語の先生**だと。そこであるときから私は、本文と設問を一続きの文章として読むことにし、国語の先生が何を言いたいのかと考えるように発想を転換した。これ気がついてから**私の国語の成績は瞬く間に上昇**した。

・**小説を読む理由**は、単に教養のため、あるいは娯楽のためではない。**人間が生きている間に経験できることは限られている**。小説はそうした私たちの人生に入り込んでくる**一種の異物**である。それをただ排除するのか、磨き上げて豊かな体験とするかは読者の態度次第である。**一冊の本を骨の髄まで味わい尽くそう**。それを可能とするのは読者の創造的な読みなのだ。

・**読書は読み終わったときにこそ本当に始まる**。ページをめくりながら、自分なりに考え、感じたことをこれからの生活にどう生かしていくか。**読書という体験は、そこで初めて意味を持つてくるのである**。

もっと紹介したいけど、ここまでで残念です。もし興味があればぜひ買ってよんでみてください。
人生トータルでだいぶ得する本だと思います。